

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・GM	写真・GT
山行番	NO. 1921		
日時	2021/5/23(日) 晴れ		
山域	西丹沢・不老山(928m)		
コース	山市場(駐車場) 7:40-東尾根取付き 7:50-643m峰 8:50-一般道合流点 9:50-不老山(昼食) 10:30~11:20-番ヶ平 11:55-843m峰 12:20-648m峰 12:50-平山(鹿柵) 13:35-山市場(駐車場) 13:55-裾野・合谷BC(直会)		
標高差	上り 山市場215m ~ 不老山928m=約713m 下り 不老山928m ~ 山市場215m=約713m		
快適度	4(5段階評価)=曇り午後から晴れ・頂上は低温寒い		
参加者	後藤、加藤、井上、星、合谷=5名		

今日はいつものメンバー5名で、西丹沢の不老山への山行である。

山行テーマは、「サンショウバラ観察」と「バリエーション研究」。ネットによれば「サンショウバラは大柄の派手な花で日本固有種であり、神奈川・静岡・山梨県境付近に自生しており、サンショウバラの見どころとして名高いのが不老山周辺らしい」(花にあまり興味のない私は名前を聞くのも初めてだし、当然見たこともない)



代掻き(山市場)

後藤さんの車に裾野で6時過ぎにピックアップしてもらい、登り口の西丹沢の山市場に7時20分に到着。今日は上り、下りとも一般道ではなくバリエーションルートを歩くようなので、足場があまり良くないと思い、スパッツを装着した。(後藤さんもスパッツを装着、他3人は未装着)このスパッツが最後に災難を回避してくれることになるとは知る由もなかった。

7時40分に山市場の駐車場を出発、今年はすでに梅雨しており、天候は曇りで湿気が高い。出発後すぐに県道から眼下でオジサンが田んぼの「代掻き」をしているのが見えた。河内川の吊り橋を渡り、火打沢を渡り7時50分に東尾根に取付いた。



河内川吊り橋



火打沢

取付きからは結構急な登りとなり人工林が続いたが、間伐され、ピンク色テープの目印もあり、足場もそれほど悪くなく歩き易かった。1時間程登り、643m峰に8時50分に到着。

そこから登りがやや緩やかになり、813m峰を越えて、北に50m程下り、上り返して荒れた林道に出て、そこから一般道を辿り10時25分に不老山東峰に到着。

残念ながら期待の「サンショウバラ」はまだまだ固い蕾状態でまったく咲いていなかった。「サンショウバラ」という名前は葉がサンショウ（山椒）の葉に似ているからついていることを加藤さんから教えてもらい、確かに葉を見て納得できた。



・643m峰

花は咲いていないので、不老山西峰に移動し、10時半と少し早い在那里で昼食をとった。曇っていて日が差していないせいか、少し寒いが栄養剤（ビール）を2本頂いた。

昼食後、記念写真を撮り、11時20分に下山開始。不老山から番ヶ平までは一般道を下り、バリエーションルートに入った。

番ヶ平から北西に進み、867m峰の北を巻いて、843m峰まで進んだ。そこから方向を南西に変えて、急な笹藪のある尾根を下って648m峰を通り、平山集落の鹿柵までいき下った。

登りのバリエーションルートとは違い、下りのバリエーションルートは勾配も急で落ち葉も深く非常に

歩き難かった。(この下りの深い落ち葉に、「あの動物」がいたのかな)

鹿柵を過ぎてから星さんと井上さんが「山ヒル」にやられているのが判明。14時前にゴールの山市場の駐車場に到着。ここでリュックをおろして他にヒルがいないか確認、星さんのリュックや加藤さんの靴からヒルが見つかり、ビックリ仰天。

加藤さんの足もヒルにやられていて流血、30年以上山登りしていてヒルにやられたのは初めてらしい。後藤さんと私はスパッツを付けていたからかヒルの被害に遭わなかったと思われます。

この後、足柄の湯に行って疲れを癒し、換気のいい私の家の車庫で懇親会(手作りビール提供)をやり、楽しいひと時を過ごした。「山ヒル」被害はありましたが、楽しい登山でした。



その他の記述(ごとう)

1. 車は、某所に置かせて貰った。親切な方で感謝。
2. 田んぼの「代掻き」は、最後は、やっぱり「人間の手」が必要とのこと。
3. スパッツは、「ヒル対策」ではなく「泥除け」だったが、結果的にそれが良かった。しかし、泥・ゴミが多いバリエーションで、他の方がスパッツなしは考えられないが・・・。
4. 火打沢は、昔、沢登りをやった。大きな滝が連続する。名称は、以前は「ヒイチ沢」だった。
5. 登山者は多かった。概ね、花が目的。頂上は、手が悴むくらい寒かった。所が、半そで・半ズボン

の中年男子が登場。聞けば「山ラン」という。動いていれば、「寒くない」そうだ。

6. 集合写真は、何処かのオジサンに撮影して貰った。
7. ・P6 4 8 m峰から、尾根がハッキリせず、下降が難しかった。
8. 途中、「エビネラン」が咲いていた。
9. 下山は、平山集落。河内川の北に広がる良い所だった。若い夫婦と交流。ただ、彼・彼女は、「サンショウバラ」を見に行つたと言つたが、意外にも、それを知らなかった。
10. 「ヒル」に吸血されると、なかなか出血が止まらない。血の気が多かつた。(´艸`)

・・・人は出血すると、フィブリンという血液を凝固させる物質が働き、かさぶたとなって血を止める。しかし、ヤマビルが吸血中に出す「ヒルジン」という物質はフィブリンの働きを妨げるので、「少なくとも1、2時間は出血し続けてだらだらと血が流れる」吸血されている間は、蚊に刺された時のように気付くケースはほとんどないという。

前吸盤の中央に逆Y字状をした筋肉質の3つの顎に各々70～80の細かい歯（顎歯という）が並んでいます。吸血する時はこの歯を使って皮膚を逆Y字型に傷つけてヒルジンを出して血液を固まらせないようにして吸血します。



山ヒル





裾野・合谷 BC の直会

それと同時に痛みを感じさせないモルヒネのような物質を出すため、吸血されていても気がつきません。そのため、吸血されると血が止まらず(だいたい体重の10~20倍の血液を吸います。驚くとは思いますが、出血量はわずかなので、人命にかかわることはありません)、衣類や靴下などが赤く染まり、後で気がつくことが多いのです。・・・ネット



寒いので厚着でした

